

平成30年度 田島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪市中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成30年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

**平成30年度 田島中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)					平均無解答率(%)				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
3年	学校	57	71	57	61	42	62	3.7	5.3	4.3	14.4	6.5
	大阪市	—	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9	5.9
4月17日	全国	—	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	56	48.4	46.5	53.9	55.7	57.1	21.0	4.9	14.9	8.5	4.8
	大阪市	—	51.6	48.1	56.7	56.5	56.2	16.9	4.6	10.5	7.2	3.8
9月4日	大阪府	—	53.0	49.5	58.9	58.0	58.5	16.0	4.5	10.3	7.3	3.6

3 大阪市中学校3年生統一テスト

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
3年	学校	57	56.1	55.6	56.4	56.9	62.4
10月4日	大阪市	—	60.2	58.8	59.2	57.1	60.7

平成30年度 田島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

「全国学力学習状況調査結果」について

国語では、国語Aで課題が見られるのが「書く力」であり、次いで「漢字力」や「語彙力」である。また国語Bでは、「読む力」に課題が見られる。解答状況を見てみると、文章の大まかな趣旨をとらえたり、文章をより抽象的な言葉で要約するといった力が弱いが、書くことへの意欲や基礎的な力は身についており、今後は「書く力」を伸ばせるよう取り組んでいく。

数学では、無解答率の割合が高い。自らが解けない問題に対しては答えない傾向がある。数学Bの結果では、「図形」の分野は全国平均よりも高く、授業で作図の演習の時間をとった成果がみられる、また、何度も演習した「証明」なども正答率が高かった。

理科では、今までに繰り返し学習した事項や「実験を行ったことがある」問題については、積極的に解答し、正答にたどりついている生徒が多くみられる。一方で、『活用』の問題についての正答率が全国や大阪市の平均に比べて低い。考察を求められる実験の問題に関しては、複数の既習事項を合算して考えることが難しい生徒が多くみられる。『知識』の問題の中でも、計算問題は正答率が低く、計算問題の演習時間がさらに必要である。また、実験を積極的に実施することが必要である。

「中学校チャレンジテスト(3年生)」の結果について

・各教科平均点の対大阪市比が、国語が-3.1、社会が-1.6、数学が-2.8、理科が-0.7、英語が0.9、

英語以外のテストにおいて大阪市平均を下回る結果となった。

・社会の雨温図を選択する問題では、府(51.0%)と比較して正答率が高い(55.4%)。また、時差の問題でも府(40.2%)を上回っているため、「資料活用の技能」の定着に一定の成果があった。

・数学の問題形式別平均点では、記述式問題が0.1点上回っていた。

「大阪市中学校3年生統一テスト」の結果について

各教科平均正答率の対大阪市比は、国語が-4.1、社会が-3.2、数学が-2.9、理科が-0.8、英語が1.7と、英語以外のテストにおいて大阪市平均正答率を下回る結果となった。国語の「説明文の内容を読み取る」問題で、大阪市平均より3.68%高い結果であった。理科の活用問題は大阪市の平均に比べて2年連続上回り、特に今年度は7%も上回った。英語では、90点以上の生徒の割合は昨年度とあまり変わらず約28%であるが、今年度は0点～20点未満の生徒は0%で、基本的な問題の正答率があげることができた。

【今後に向けて】

今年度より本校では、「学力向上推進モデル事業」を国語・数学で受けている。「学力向上指導実践チーム」が授業改善に向けてきめ細やかに指導助言を行っている。

国語では、読解力の養成を中心に、習熟度別授業や少人数授業で、文章の趣旨をとらえたり、文章を抽象的なことばで要約したり、適切な表現に言い替えるなどの演習を行っていく。

社会では、知識を定着させ、それを基に選択・思考・判断したことを説明できる言語表現を総合的に結び付けた活用力の育成を行う。

数学では、生徒が実際に何度も作図の演習を行ってきたので、作図問題の正答率は高かった。授業の中でポイントを伝える際に板書だけでなく動画や物を使った視覚でとらえることができるようICTを活用した授業を取りしていく。また、演習問題を行う時間をいかに増やすかなど年間指導計画についても検討をしていく。

理科では、基礎・基本事項の定着を図るために、プリント等を活用して繰り返しの演習を行う。自ら課題を見つけて考察する力を持つために、さまざまな体験をさせたうえで、生活の中の現象と関連づける演習問題に取り組む時間を増やしていく。

英語では、リスニングにおいては数字や曜日、月などの基本用語の込んだリスニング練習問題を反復学習し、資料を見ながら聞き取る練習問題を定期的に実施し、リスニング力を向上する。また、英作文の指導では、英語で自分の意見を述べたり、説明したりできるような授業を実施する。